

事務局だより

第14回

みえの農村風景 写真コンテスト 受賞作品



最優秀賞

「春」(鳥羽市)山本幸平



トラクターでの耕運、満開の桜、近鉄特急、そして緑と田園。それぞれその時でしか撮れない一瞬をとらえた素晴らしい作品です。特急の黄色、桜の桃色、のり面の緑のバランス、特急と桜の枝とトラクターと田んぼの境界線が対称になっているのもいい味を出しています。



優秀賞

「収穫を終えて」(多気町長谷車田)加藤和弘

文字通り車の車輪のような車田で行われた収穫祭の後の様子でしょうか。刈り取られた稲穂が円状に並べられ、車田でした表現できない構図の写真です。普段なかなか知ることのできない車田での収穫後の一場面を切り取っています。



「虫送り」(明和町)山口一明



害虫を追い払い豊作を願う明和町蓑村で伝統の虫送りの一コマ。手前で力強く燃える松明の炎をとらえる一方、一步引いたアングルで多くの人を写し、行事の盛り上がる様子を伝えている点もいいです。夕焼けと松明の炎の色合いもマッチし、いい味を出しています。

みえの農村にスポットをあてた写真を募集して、農業・農村に対する関心を高めていただき、さらに広報冊子、その他の広報資料にこの写真を活用する事を目的とした写真コンテストを実施しました。

83点の力作が寄せられ、平成30年2月19日に5名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞4点、伊勢新聞社賞1点が選ばれました。



特別賞

「虫おくり」(熊野丸山千枚田)白藤一己

千枚田に灯された松明が幻想的な雰囲気を醸し出しています。なるべく千枚田の全景を映そうと高いところから撮影しているようですが、いい写真を撮るために撮影ポイントを探すのには試行錯誤したのではないのでしょうか。



「名松線沿線の田植」(津市美杉町)山脇陸祐



水田のスペースを中心に多くスペースをとり、真ん中に空間を作った構図は田舎ならではのゆとり、ほのぼの感が出ています。前に進むディーゼルカーとトラクターがすくすく育つ稲の姿をより強調しています。

「車田の田植え」(多気郡多気町長谷)荒木信子

お嬢ちゃんの隣で何かを指を指しているのはおばあちゃんでしょうか。田植えの作業、暮らしの知恵を農業というのは普段と違った1面を感じ取れたのではないのでしょうか？



「泥だらけの男衆」(志摩市磯部町上之郷)橋本英幸



「日本三大御田植祭」と言われる伊勢神宮の別宮伊雑宮(志摩市磯部町)で行われる御田植祭の一コマ。男性たちの真剣な表情と泥しぶきが迫力と躍動感を醸し出しています。



伊勢新聞社賞

「楽しい田植え」
(多気郡多気町)中村昭夫

「楽しい田植え」のタイトルの通り、少女二人の純粋無垢な表情から、自然とふれあい田植えを楽しんでいるに姿が伝わってきます。大きくなっても田んぼや自然に親しみを持ってほしいですね。

